



環境省 自然環境局

生物多様性センター

Biodiversity Center of Japan



「琉球弧の生物多様性」イラスト：永田信行

表紙のイラスト

各地域の生物多様性を1枚の絵巻にして表現した「つながりんぐ」より抜粋しました。全体は、展示室にてご覧いただくことができます。北海道から沖縄まで、300種類以上の動植物が描かれており、日本列島の生きものたちと、人のくらしのつながりが表現されています。



生物多様性センターからのお知らせ

●地理情報システム (GIS) に対応したデータの提供をはじめました。



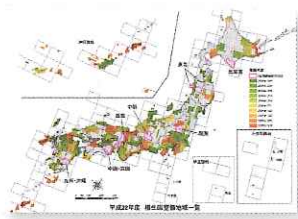
生物多様性センターのホームページでは、自然環境保全基礎調査の成果等、生物多様性保全のための各種情報を提供しています。これらの情報を地図、空中写真、人工衛星画像の上に重ねて表示するWeb-GISの技術を活用した情報閲覧サービス「自然環境情報GIS提供システム」を昨年度から開始しています。この5月には新たに2.5万分の1の植生図データの提供を開始しました。鳥の渡りに関するデータの提供も準備しています。

URL: <http://www.biodic.go.jp/trialSystem/top.html>

●ライブカメラが新しくなりました。

生物多様性センターのホームページ「インターネット自然研究所」では、日本全国に設置した固定式ライブカメラを通じて、国立公園の美しい風景、また、野生生物の最新の映像をご覧いただけます。このたび、ライブカメラを交換しましたので、より鮮やかな画像を楽しんでいただくことができますようになりました。過去の画像も蓄積してありますので、引き続きご覧いただけます。

URL: <http://www.sizenken.biodic.go.jp/live/index.php>



●植生図(2.5万分の1)の整備が進んでいます。

平成11年度から実施している縮尺2万5千分の1植生図の整備は、昨年度で12年目を迎え、整備済みの地域(確認中の地域を含む)は全体の約55%に広がりました。整備済みの植生図については、「植生調査情報提供」ホームページにて閲覧・ダウンロードができるほか、自然環境情報GIS提供システムでもみられるようになりました。

URL: <http://www.vegetation.jp/>

●特定哺乳類生息状況調査報告書がまとまりました。

本調査は、中大型哺乳類5種(ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル)を対象として、全国的な個体数の推定、生息動向の把握手法の検討などを行ったものです。報告書は生物多様性センターのホームページに掲載していますのでご活用ください。

URL: http://www.biodic.go.jp/kiso/15/tokudo_kiso.html



●ガンカモ類の生息調査の過去のデータを公開しました。

ガンカモ類の生息調査は、昭和44年度に各都道府県の協力を得て開始され、毎年継続的に調査されてきました。このたび、昭和44年度から昭和62年度までの調査結果について、調査年度ごとにエクセルファイルにまとめました。これで過去の調査結果をすべて生物多様性センターホームページに掲載しましたのでご活用ください。

URL: <http://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/index.html>

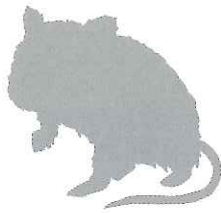
●「いきものみつけ」にご参加ください!

市民参加の生きものしらべ「いきものみつけ」を、今年も実施しています。今年、新しい顔ぶれを含めた30種の情報を集めています。今夏の調査では、ニホンアマガエルやツクツクボウシなど身近に見られる様々な生きものを対象としていますので、見つけたらホームページから情報をお送りください! 生きものから季節の変化を感じてみませんか?

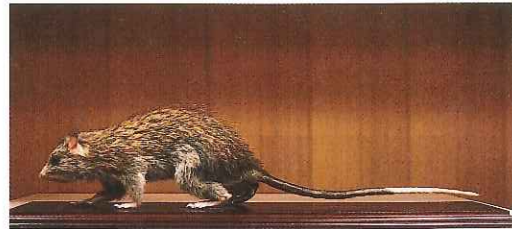
URL: <http://www.mikke.go.jp/>



生物多様性センターに収蔵している標本の紹介 第21回



和名/ケナガネズミ
学名/*Diplothrix legata*
RDBカテゴリー/絶滅危惧IB類 (EN)
分類/ネズミ目ネズミ科



(ケナガネズミ本剥製 当センター所蔵)

●日本最大のネズミ

ケナガネズミは全長が約60cmにもなる日本最大のネズミで、全長の半分にも及ぶしっぽの長さと、体毛に混生する5~7cmの剛毛が特徴です。南西諸島の中でも奄美大島、徳之島、沖縄島にのみ分布し、日本国内では他に似た種がない学術的にも貴重なネズミであることから、昭和47年に国の天然記念物に指定されました。



長い尾の先は白く、かぎ爪で器用に木に登る。
(写真提供 環境省那覇自然環境事務所)

●謎だらけの生態

南西諸島には、樹齢100年を超えるイタジイの大木やアラカシなどで構成される亜熱帯性照葉樹林が広がっています。ケナガネズミは樹上生活を主とする森林性のネズミで、亜熱帯性照葉樹林の大径木の樹洞を巣として利用します。樹洞内に枯れ葉や枯れ枝を運び込んで直径30cmほどの丸い巣を作り、一度の出産で2~5仔を産みます。夜行性のため夕方から活動を始め、シイやカシのドングリの他に、樹上の花やバッタ、コオロギなどの昆虫を捕食する雑食性であることが知られていますが、詳しい生態はわかっていません。

●ケナガネズミは、今

ケナガネズミは非常に温かな動物と言われています。人間に対する警戒心も少なく、動作も俊敏ではないため、運良く出会うことができれば、その長い尾で舵を取り、バランス良く枝を伝う姿を観察することができます。地上で目撃されることもありますが、地上歩行は不得意で、これが近年多発しているケナガネズミの交通事故の原因となっています。マングース防除事業の進展もあり、生息状況回復の兆しが見え始めたケナガネズミですが、交通事故の他にも、自然林の減少や、ノイヌ、ノネコによる捕食など、まだまだ気を抜けない問題があります。

参考文献：金子之史 (2006) ネズミの分類学. 東京大学出版会. pp.93-94.
安間繁樹 (2001) 琉球列島. 東海大学出版会. 195pp.
上野俊一 (1993) 滅びゆく日本の動物50種. 築地書館. pp.40-42.



背中には体毛に混ざり毛足の長い「剛毛」が見られる。これが和名の由来とされる

★「生物多様性まつり2011 ~知ってる?身近な生きものたち~」を8月7日(日)に開催します!!

「生物多様性まつり」は、毎年8月に行っている生物多様性センター恒例のイベントです。今年で11回目を迎え、毎年たくさんの方に参加いただいています。このイベントでは、身近な生きものを通じて生物多様性への理解を深めるきっかけにしようことを目的に、体験プログラムや標本収蔵庫ツアーなど子どもから大人まで楽しんでいただけるように、盛りだくさんのプログラムを予定しています。

詳しくは<http://www.biodic.go.jp/event/2011/index.html>まで!



(生物多様性まつり2010の野外観察会の様子)

